

会 議 録

会 議 名	第6回 (仮称) 八王子市交通マスタープラン検討委員会	
日 時	平成27年2月24日(火) 10:00~12:00	
場 所	八王子市学園都市センター 12階 第1セミナー室	
出席者氏名	委員	鹿島茂委員長、駒沢広行委員長代理、中島静雄、長谷川久、鈴木律子、宮瀬睦夫、河村英知(佐久間博之)、松浦いづみ(砂田覚)、三澤正俊、飯田輝彦(中山登)、西山徹、肥塚知成(川崎徹)、高山恒明(河辺恵介)、寺尾一彦、内田瞭、木内基容子、伊藤紀彦、西山忠 ※()は代理出席者
	説明者	大木 昇主査
	事務局	坂倉 進交通企画課長、島田 涼子主任、畠山 陽平主事 株式会社日本能率協会総合研究所2名
欠 席 者 氏 名	立石努、三木健明、高橋政雄	
議 題	(1) 資料説明 ・パブリックコメントの結果について ・これまでの意見の反映 (2) その他	
公開・非公開・別	公開	
非 公 開 理 由	—	
傍 聴 人 の 数	なし	
配 布 資 料 名	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・資料1：パブリックコメントの結果について ・資料2-1：これまでの検討委員会における意見の反映【第5回】 ・資料2-2：これまでの検討委員会における意見の反映【第1回~4回】 ・資料3：八王子市交通マスタープラン【案】 ・資料4：施策に関する用語の整理について 	

会議の内容

【委員】1点補足であるが、市政世論調査は、これまで3,000人を対象としてきたが、今後は5,000人を対象とすることとした。

【委員長】パブリックコメントの11件と言うのは、多いのか少ないのか。

【事務局】平成25年度に本市の基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」を改定したので、それに伴って分野の計画を10本程度、同時期に意見募集したため、本当に関心の高い人が回答してきたのではないかと。

【委員】私も交通分野以外にも、5件程度パブリックコメントを送った。市民の中には、パブリックコメントを実施していることを知らない人も多いのではないかと。

【委員長】資料1には、「整備していく」と言った記載が多くあるが、記載してあることは、全てやるという理解でよいのか。

【事務局】部署の中で整備していく、と言う記載になっているものは、実施する。

【委員】今まで意見として出てなかったが、中央道八王子インターまでを首都高に組み込んでほしいという要望が多い。八王子までは東京都なのに、中央道に組み込まれ、600円多く払っている。首都高は千葉まで延びており不公平である。議会でも署名をした。今度のマスタープランで触れているのか。

【事務局】資料3 P63の首都圏高速道路ネットワークの利便性向上の促進において、環状道路の持つ機能を十分発揮できる料金体系の構築を図るなど首都圏高速道路ネットワークの利便性向上に向けて関係機関に働き掛けていくことを記載しており、中央道と首都高の問題についても取り組んでいく。

【委員】恩方地区、滝山地区などが陸の孤島になっている。交通網を整備しないといけない。

【事務局】BRTの導入検討などの可能性について研究をすすめる。本編P67に地域間公共交通の充実という項目を記載しており、新交通システムも含めた、バスだけでない交通システムについても課題は多いが、長期的な視点で取り組んで地域の発展につなげていきたい。

【委員長】八王子は大きな地域で、都市的な所もあれば過疎化している農村との地域差がある。地域差があるところについて、これまでとはイメージが違う移動手段について考えているのか。

【事務局】本編P70多様な交通手段による移動の確保にあるとおり、市域が広い八王子では、高齢化に伴い移動困難者が出てくる。様々な交通手段を検討しながら交通弱者への対応を図る。地域交通の導入の検討や、国でも様々なプランが示されつつある。地域と十分話し合いをしながら継続的に取り組んでいきたい。

【委員長】 モニタリング指標の中で地域的なものを入れてはどうか。市民評価で人口の少ないところから便利なところに市民が移動していると、公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合の差が広がるため、地域ごとにあってもいいのかもしれない。

【事務局】 P94 目標 2④公共交通機関が便利であると感じている市民の割合アンケート調査は、地域ごと取っているので分析をしたい。

【委員】 四谷の方で、大型スーパー店が勝手に進出し、撤退したことで、買物難民が残されている。残された広い地域を利用して、大げさな言い方をすればディズニーランドのような、買物したり、文化的な活動ができる施設を作り、大型店が無くなっても安定した生活ができるようにしてほしい。

【委員長】 原則的には、都市に住むということは基本的に土地が足りないので遠慮する代わりに利便性を享受している。都市計画区域の市街化区域と調整区域では、土地の使い方が違う。市街化区域の人口密度が年々下がっており、サービス提供も含め議論が必要である。

【委員】 この委員会の範囲がわからなくなってきた。計画の主語は誰になるのか。様々な意見に対して対策は書いてあるが、市の政策としてこうなっているのか、それとも、市全体の幸せのために記載されているのか。

【委員長】 交通マスタープラン一つの計画だけではなく、様々な計画が補完しあいながら、計画を進めていくことになる。また、進まないからこそ計画が必要ともいえる。肝心なのは速度であるが、今回はまだそこまで議論できない。昨年度の交通政策基本法を受け、地域交通の責任者が地方公共団体となり、自由になったけれど責任を負うこととなった。

【委員】 今回で、マスタープランの検討は終了するが、この話し合いの結果、何が進んでいくのが重要である。

北西部は鉄道がなく、北西部の自治会長たちは、現状のまま変わらないと思っているため、何らかの形で結果が必要である。個人的にはモノレールが多摩センター～みなみ野～八王子～あきる野に延伸すれば良いと考えている。

【委員長】 日本の交通計画は行政機関のための計画であって、市民に対するサービス供給の約束ではない。市民の意見を聞いて、それを行政に活かしていただくしかないのが現状である。

【委員】 赤字覚悟でも良いので、北西部地域にはモノレールだけでも通したらどうか。

【事務局】 モノレールについては八王子ルートの実現を目指し長期的に研究・検討を行う。

【委員】 モノレールの運営会社に任せるのではなく、八王子市として取り組むべきだ。京王電鉄が協力してくれるかもしれない。

【委員】 駅のタクシー乗り場のバリアフリー化については、早急に進めていただきたい。以前、八王子駅北口で、転倒したお客様がいた。各駅のバリアフリーの点検が必要である。

【委員】 バス交通ではすぐに対応できないこともあるが、これまで八王子駅から陣馬街道を通るといった長大路線を、高尾駅に結ぶことによって利便性を高めるなどの取り組みを行っている。数年のスパンで評価いただければ、一定の成果が上がっている。
行政とは、事務レベルで協議させていただいており、連携ができています。

【委員】 重要なのは、市長のやる気である。多摩都市モノレールの延伸も、これまでの市長にはやる気がなかった。商工会議所、大学、日本都市モノレール協会等で勉強会を続け、磁気浮上型の HSST 導入の検討もしたが、この方式では、国はインフラ整備に補助をしてくれない。多摩都市モノレール導入については、市民一丸となって取り組む必要がある。

【委員】 モノレールについては、署名活動をする準備を進めている。現市長は、モノレールの誘致に熱心になってきている。

【委員】 多摩都市モノレールを誘致するのは良いが、高尾駅から北西部を網羅するモノレールが必要である。

【事務局】 将来の街づくりと連携しながら考えることが必要である。

【委員】 公共交通の活性化となると交通だけでなく、まちづくりだけでも成り立たない。この地域の将来の人口等の動向を見定めながら検討していくことが必要である。

【委員】 八王子市は、京王電鉄の中でも最も多くの駅を有している市である。市民の意見を取り入れたサービスを提供していきたいので、引き続き、様々な意見を聞いていきたい。

【委員】 信号ひとつ作るにも非常に時間がかかるものである。また、せっかく作ってもあまり意味がないような場合もある。しっかりと情勢を見定めてフレキシブルに対応することが重要ではないか。

【委員】 八王子の将来について真剣に討論されているので、少しでも多くの事業が実現できれば良い。

【委員】 現実的に進めていきたいのは、秋川街道、高尾街道における整備、自転車道の整備を進めるべきである。八王子の北口・南口について歩行者が歩きやすく買い物しやすい、来たくなるような整備を進め、拠点となる駅周辺・市街地を作っていくべきである。

【委員】官が全部やるのではなく、民間の活動を助けていくという流れをつくることも重要である。交通インフラを整備している京王グループがどう考えているのかを踏まえることや、隣接市がどう考えるのかを知るべきである。

【委員】かつて 10 数年前に新滝山街道の建設に携わった。インフラの管理者として、市民等の話を聞きながら、協力していきたい。

【委員】圏央道の相武国道が西部する区間は完了し、今後は八王子南バイパスの整備を中心に整備を推進していきたい。なお、16 号バイパスについては、10 月無料化に向け、NEXCO 調整中である。